96. Jリーグ全ホームスタジアムの施設特性と立地特性に関する基礎的研究

- スタジアムと周辺地域との一体的な開発に向けた一考察 -

A Basic Study on the Facilities and Locations of Home Stadiums of All J.League Clubs

- Toward Integrated Development at and around Stadiums -

志摩 憲寿*・宮吉 悠太**

Norihisa SHIMA*, Yuta MIYAYOSHI**

Toward the 2020 Olympic Game in Tokyo, there is increasing awareness of strategic use of stadiums, and one of the issues is integrated development around stadiums. Though J.League has long pointed it out, yet different facilities and locations of different home stadiums makes it unclear to reach the solution. Therefore, this study aims to classify the home stadiums of all J.League clubs and to discuss the way toward integrated development around the stadiums. Analyzing building sites of the stadiums and landuse regulations around them as well as arranging basic information of the stadiums such as capacity, ownership, management, opening year, the conclusion highlights three different types of J.League home stadiums: Urban stadiums, suburban stadiums, and fringe stadiums, pointing out the necessity to consider the landuse regulation designated at and around the stadiums.

Keywords: J.League, Stadium, Home town, Landuse regulation

Jリーグ、スタジアム、ホームタウン、土地利用規制

1. はじめに

2020年の東京オリンピックが近づくことも重なり、政府による「日本再興戦略2016」や「未来投資戦略2017」等において地域活性化の拠点としてスタジアムやアリーナへの期待が寄せられている。2016年、スポーツ庁、国土交通省、観光庁や地方自治体関係者、プロスポーツ関係者、学識者等によって設置された「スタジアム・アリーナ推進官民連携協議会」は、スタジアム・アリーナの利活用の基本的な考え方として、「まちづくりの中核となるスタジアム・アリーナ」を課題の一つとして掲げ、スタジアム・アリーナの複合機能化をはじめとする施設そのものの整備に加え、「まちなかスタジアム」にもみられるように、最寄り駅や周辺道路等のスタジアム・アリーナへのアクセス向上、周辺地域との連続性を意識した市街地整備をはじめとするスタジアム・アリーナと周辺地域との一体的な開発の重要性を説いている¹⁾。

一方、地元密着型のプロスポーツを標榜してきたJリーグもまた「スタジアムを核としたまちづくり」を理想の未来として描いており、例えば、ユアテックスタジアムのように、チーム、スタジアム管理者、自治体、民間企業等の共同によるスタジアム改修もみられるようになったし、「レイソルロード」をはじめとする地元商店街と一体となった活動の例も聞かれる²⁾。しかしながら、プロ野球に続く、いわば後発的なプロスポーツであるJリーグの各チーム、とりわけ地元クラブチームから新たにJリーグに参入したチームにとっては、周辺道路等も含めると数百億円にも上るスタジアム建設費用を捻出することは事実上不可能であり、チームが自前でホームスタジアムを建設・改修するのではなく、(主として行政によって整備された)既存施設をホームスタジアムとして使用することが現実的ではあるが、

これらのスタジアムは、用地取得において時間・費用いずれにおいてもコスト高となる既成市街地ではなく³⁾、郊外に多く整備されていると予想されることから、例えば、市街化調整区域内にスタジアムが立地する場合ははじめとして、周辺地域の開発を慎重に進めざる得ない場面もみられよう。それでは、Jリーグにおいてスタジアムと周辺地域との一体的な開発にはどのような方策があり得るだろうか、本研究の根底的な問題意識をここに置きたい。

スタジアムと周辺地域との関連をとりあげた研究には一定の蓄積がみられ、例えば、齋藤ら(2011)は大都市部におけるサッカースタジアムの立地特性と周辺開発の経緯を整理し、宮川ら(2015)はプロ野球・Jリーグ・bjリーグにおける「まちなかスタジアム」の取り組みを報じている。松村(2006)をはじめとして社会学的な視点からJリーグやワールドカップに伴う地域社会の変容を読み解いた個別事例研究的なものもある。一方、有馬ら(2014)は、全てのプロ野球専用球場をとりあげて立地特性や周辺整備を分析しており、有用な分析の視座が得られる。そこで、本研究では、上述のようなスタジアムに対する社会的期待の一方で、Jリーグホームスタジアムをめぐる厳しい諸条件も考え合わせ、全国的動向をいま一度俯瞰的な視点から捉えることとし、したがって、本研究は、関連諸研究と一定の問題意識を共有しつつも、その対象や枠組みを拡大した研究として位置付けたい。

このような問題意識の下で実施した本研究は、Jリーグホームスタジアムと周辺地域との一体的な開発に向けた具体的な方策を描く上での基礎的調査の報告であり、2017シーズンのJ1・J2・J3全チーム54のホームスタジアムを対象として⁴⁾、スタジアムの施設特性と立地特性を俯瞰的に明らかにすることを目的とするものである。本研究では、

* 正会員・東洋大学国際学部国際地域学科 (Department of Regional Development Studies, Toyo University)

** 非会員・株式会社 MJE (MJE INC.)

地域活性化の拠点の一つとしてのJリーグホームスタジアムに対する社会的期待や俯瞰的な基礎的調査という本研究の目的もふまえつつ、「スタジアムと周辺地域との一体的な開発」を「スタジアムを拠点とし、スタジアムと周辺地域とが一体性を有するような開発」と広義に解釈する⁽⁴⁾。このような定義に基づき、本研究では、まず、一体的な開発において拠点となるスタジアムの施設的な特性を整理した上で(第2章)、スタジアムの建設地、スタジアム及び周辺地域の土地利用規制をはじめとするスタジアムの立地上の特性を分析⁽⁵⁾、スタジアムと周辺地域との一体的な開発に向けた論点を考察し(第3章)、議論を総括する(第4章)。

2. ホームスタジアムの施設特性(表1)

本章では、まず、基礎的情報としてJリーグホームスタジアムの所在地を確認した上で、施設特性として、スタジアムの種別、入場可能数と平均入場者数、開業時期と整備の経緯、所有者・管理者を整理することとした。

2.1 スタジアムの所在地

Jリーグのホームスタジアムは全国37都道府県51市と比較的全国に広がっており(したがって、Jリーグスタジアムを有する町村はない)⁽⁶⁾、さいたま市と横浜市、大阪市には2箇所のホームスタジアムがある。なお、これらの市はいずれもクラブが定めるホームタウンであった。これらの市を人口規模別にみると、人口100万人以上が11市、50万人以上100万人未満が9市、20万人以上50万人未満が19市、10万人以上20万人未満が9市、10万人未満も3市あり、また、地方行政上の区分では、指定都市21市、中核市14市、施行時特例市6市であり、必ずしも全てが県庁所在地という訳でもないが、少なくとも各地方の中心的な都市に置かれている。

2.2 スタジアムの種別

スタジアムをサッカー専用、球技場(ラグビーやアメリカンフットボール等の球技を開催できるもの)、多目的競技場(陸上トラック等を備えたもの)でみると、サッカー専用のスタジアムは8施設、球技場は16施設、多目的競技場が30施設であり、殆どのホームスタジアムが球技場や多目的競技場といった「兼用スタジアム」であると分かる。

また、スタジアムの規模を入場可能者数でみると、規模の最も大きなものは7万2千人を収容する日産スタジアムであり、(日本代表戦等の国際試合を実施することができる)4万人以上のホームスタジアムは日産スタジアムを含めて6箇所ある。Jリーグクラブライセンス交付基準に照らして入場可能者数をみると、1.5万人以上(J1ライセンス基準)4万人未満37箇所、1万人以上(J2ライセンス基準)1.5万人未満4箇所、入場可能者数が1万人未満のスタジアムは7箇所であった。ここで、入場可能数を2017シーズンの平均入場者数で除した「充足率」を計算すると、充足率が最も高かったスタジアムはヤマハスタジアム(90.8%)で、三協Fスタジアム(78.1%)、IAIスタジアム(74.8%)、ユアテックスタジアム(74.6%)、NACK5スタジアム(72.9%)

が続き、いずれもJ1チームのホームスタジアムであった。

2.3 スタジアムの開業時期と整備の経緯

スタジアムの開業は、パロマ瑞穂スタジアムや西京極スタジアムのように戦前に建設され、今日まで改修を重ねてきたものから、吹田スタジアム(2015年)やミクニスタジアム(2017年)のように近年完成したものまで様々であるが、その沿革をみると、古くは東京オリンピック(1964年)、近年では2002年の日韓ワールドカップ(2000年)、また、各都道府県での国民体育大会(国体)やインターハイ(総体)といった大会の開催を契機として建設・改修される例が多いことが分かる。ここにおいて、とりわけ国体の(サッカー会場ではなく)主会場として整備が進められた場合には、例えば、富山県総合運動公園陸上競技場や石川県西部緑地公園陸上競技場、沖縄県総合運動公園陸上競技場等のように、スタジアムには多目的競技場が求められることを考え合わせると、Jリーグスタジアムにおいて「兼用スタジアム」が多いことも頷けよう。

整備の経緯では、町田市立陸上競技場やBMWスタジアムのように市制記念事業として行われるものもある。また、Jリーグ加盟を契機とした改修もみられたが、毎年の更新が必要なJリーグクラブライセンスの交付基準に対応するための改修が求められる場合もある。

2.4 スタジアムの所有者・管理者

スタジアムの所有者と管理者をみると、まず、三協F柏スタジアムは(株)日立柏レイソル、ヤマハスタジアムはヤマハ発動機(株)(ジュビロ磐田の母体企業)というようにチーム等が中心となって所有・管理しており、その他のスタジアムはいずれも行政が所有し、このうち、市所有が28箇所、都県所有が24箇所であった。但し、ミクニスタジアムは「北九州市スタジアム整備等PFI事業」として九電グループによって建設されており、また、吹田スタジアムは、ガンバ大阪が中心となってスタジアム建設費を寄付で賄い、完成後に施設を市に寄付した経緯がある。

スタジアムの管理者については、行政が所有するこれら52箇所のスタジアムのうち49箇所指定管理者制度が利用されている⁽⁷⁾。外郭団体(「体育協会」「サッカー協会」「公園緑地協会」等)・チーム・民間企業・管理会社が単独で指定管理者になっているものは34箇所であり、このうち外郭団体の指定管理者が最も多く20箇所であった⁽⁸⁾。チームが管理するスタジアムは、鹿島スタジアム、吹田スタジアム、NDソフトスタジアム、ノエビアスタジアムの4箇所である。民間企業が管理するスタジアムは4箇所であるが、(株)札幌ドームや(株)東京スタジアム、(株)豊田スタジアムのように管理会社が設立される例もある。

一方、外郭団体・チーム・民間企業・管理会社によるグループやJVが管理するスタジアムも16箇所あり、例えば、デンカビックスタジアム(指定管理者:(公財)新潟県都市緑化センターとアルビレックス新潟)、日産スタジアム(指定管理者:(公財)横浜市体育協会と横浜Fマリノス、民間企業5社)、IAIスタジアム(指定管理者:(公益)静岡市ま

表1 ホームスタジアムの施設特性（出典：日本サッカー協会ら（2002）及び各種資料より作成）

スタジアム*	チーム/J 加盟年/2017 リーグ	所在地/人口 (万人) *3	種別*4 球技場 多目的	入場可能数 (千人) *5	平均入場者数 (千人) *6	開業年	沿革・概要	所有者	管理者 行政 外郭団体	チーム 民間企業	管理会社
1 札幌ドーム	札幌/1998/J1	札幌市/195.2	●	39.9	19.6	2001	旧農業試験場跡地。市は1980年代より「ホワイトドーム」建設の意向。プロ野球球団誘致やW杯会場をねらい整備。	市	●		●
2 いわぎんスタジアム	盛岡/2014/J3	盛岡市/29.8	●	4.9	1.1	1999	総体（1999）のサッカー会場として整備。	市	●		
3 ユアテックスタジアム仙台	仙台/1999/J1	仙台市/108.2	●	19.7	14.7	1997	「劇場型スタジアム」がテーマ。国体（2001）会場。	市	●		●
4 あきぎんスタジアム	秋田/2014/J3	秋田市/31.6	●	5.0	2.3	1953	国体（1961）、総体（1984）会場。1996年に改修。	市	●		
5 ND ソフトスタジアム山形	山形/1999/J2	天童市/25.4	●	20.8	6.6	1991	国体（1992）の会場として建設。約6,500台の大型駐車場あり。	県		●	
6 どうほう・みんなのスタジアム	福島/2014/J3	福島市/29.4	●	6.5	1.5	1994	国体（1995）主会場。桃をイメージしたメインスタンドが特徴。	県	●		
7 ケーズデンキスタジアム水戸	水戸/2000/J2	水戸市/27.1	●	10.2	4.9	1987	水戸市「スポーツ交流拠点」。2009年にJ水準に改修。	市	●		
8 茨城県立鹿島サッカースタジアム	鹿島/1991/J1	鹿嶋市/6.8	●	37.5	20.5	1993	日本初の本格的サッカー専用スタジアム。W杯に向け2001年改修。総体（2002）でも使用。	県		●	
9 栃木県グリーンスタジアム	栃木 SC/2009/J3	宇都宮市/47.4	●	15.3	5.1	1993	「県民ひとり1スポーツ」県整備。総体（1993）会場。J水準に改修。	県			●
10 正田醤油スタジアム群馬	群馬/2005/J2	前橋市/33.6	●	15.2	3.8	1951	1950年に建設開始。総体（1969）、国体（1983）会場。2014年改修。	県			●
11 埼玉スタジアム 2002	浦和/1991/J1	さいたま市/126.4	●	62.0	33.5	2001	アジア最大級のサッカー専用スタジアム。老朽化した県営大宮サッカー場の代替として整備。W杯会場。総体（2008）でも使用。	県	●		
12 NACK5 スタジアム大宮	大宮/1999/J1		●	15.5	11.3	1960	東京五輪（1964）サッカー会場。国体（2004）、総体（2008）会場。	市	●		
13 フクダ電子アリーナ	千葉/1991/J2	千葉市/97.2	●	19.5	10.0	2005	川崎製鉄工場跡地。蘇我特定地区として整備（UR施行）。	市			●
14 三協フロンティア柏スタジアム	柏/1995/J1	柏市/41.4	●	15.1	11.8	1986	（株）日立製作所工場跡地の日立柏総合グラウンド。J加盟を機に改修。	チーム*7		●	
15 味の素スタジアム	東京 V・FC 東京*2	調布市/22.9	●	49.0	*6	2001	調布飛行場跡地。都「武蔵野の森総合スポーツ施設の建設」（1982）。国体（2013）主会場として整備。	都			●
16 町田市立陸上競技場	町田/2012/J2	町田市/43.2	●	10.3	4.1	1990	市制施行30周年記念事業として建設された競技場。J水準に改修。	市	●		●
17 日産スタジアム	横浜 FM/1991/J1	横浜市/372.5	●	72.1	27.5	1997	多目的遊水池上（人工地盤）。W杯決勝ねらい設計。国体（1998）会場。	市	●	●	●
18 ニッパツ三ツ沢球技場	横浜 FC・YS 横浜		●	15.4	*6	1949	国体（1955）ラグビー場として建設。東京五輪（1964）でも使用。J開幕で改修。	市	●		
19 川崎市営等々力球技場	川崎 F/1991/J1	川崎市/147.5	●	26.8	22.1	1966	等々力緑地の都市計画決定（1941、内務省）。競技場整備は戦後。J開幕で改修。2007年にアメフトW杯も。	市	●		
20 相模原ギオンスタジアム	相模原/2014/J3	相模原市/72.1	●	6.3	3.7	2007	国体（1998）のラグビー場を改装。	市	●		●
21 Shonan BMW スタジアム平塚	湘南/1994/J2	平塚市/25.8	●	15.7	8.5	1984	旧農林省果樹試験場跡地。市制施行50周年を機に整備。J昇格を機に改修。	市	●		
22 デンカビックスワンスタジアム	新潟/1999/J1	新潟市/81.0	●	41.7	22.0	2001	W杯誘致をねらい整備。国体（2009）、総体（2012）でも使用。	県	●	●	
23 富山県総合運動公園陸上競技場	富山/2009/J3	富山市/41.9	●	18.6	3.2	1993	国体（2000）会場として整備。総体（1994）でも使用。W杯キャンプ地。チームのJ昇格を機に改修。	県	●		
24 石川県西部緑地公園陸上競技場	金沢/2014/J2	金沢市/46.6	●	20.3	4.4	1984	日本海環状公園跡地に県内最初のスポーツ施設として。総体（1985）、国体（1991）主会場。	県	●		
25 山梨中銀スタジアム	甲府/1999/J1	甲府市/19.3	●	15.9	10.8	1985	国体（1986）主会場として整備（山梨県営総合運動場の老朽化に伴い）。総体（1996）でも使用。J水準に改修。	県	●		
26 長野 U スタジアム	長野/2014/J3	長野市/37.8	●	15.5	4.3	2002	長野五輪主会場として公園整備。五輪後、サッカー・ラグビー場を整備。J水準に改修も。	市		●	●
27 アルウィン	松本/2012/J2	松本市/24.3	●	20.3	12.5	2001	併設の陸上競技場は国体（1977）会場として整備。	県			●
28 岐阜メモリアルセンター長良川球技場	岐阜/2008/J2	岐阜市/40.7	●	16.3	7.0	1991	岐阜県総合運動場（国体（1965）会場）を改装。国体（2012）会場。J水準に改修。	県		●	
29 IAI スタジアム日本平	清水/1991/J1	静岡市/70.5	●	20.2	15.1	1991	総体（1991）サッカー主会場。1995年に改修。	市	●	●	
30 愛鷹広域公園多目的球技場	沼津/2017/J3	沼津市/19.6	●	5.1	3.0	1996	1972年に公園を都市計画決定、1981年から基本構想に着手。	県			●
31 ヤマハスタジアム（磐田）	磐田/1994/J1	磐田市/16.7	●	15.2	13.8	1994	1978年完成のヤマハ東山サッカー場を改修。J加盟のために再改修。	チーム*7		●	
32 藤枝総合運動公園サッカー場	藤枝/2013/J3	藤枝市/14.4	●	5.1	1.5	2002	W杯キャンプ地に建設。国体（2003）サッカー主会場。	市	●		●
33 パロマ瑞穂スタジアム	名古屋/1991/J2	名古屋市/229.6	●	20.2	11.0	1941	鶴舞公園の成功を機に1937年度より「総合運動場」として建設。国体（1950）、総体（1983）、国体（1994）でも使用。	市	●		
34 豊田スタジアム		豊田市/42.3	●	41.3	22.5	2001	市制50周年を記念して建設。当初はW杯会場をねらう。設計は黒川紀章。	市			●
35 西京極スタジアム	京都/1996/J2	京都市/147.5	●	20.6	6.7	1942	1930年、昭和天皇成婚奉祝記念「京都市運動場」として建設。第1回国体（1946）、国体（1988）の会場。J加盟を機に改修。	市	●		
36 ヤンマースタジアム長居	C 大阪/1995/J1	大阪市/269.1	●	47.9	31.9	1996	戦前に完成した旧陸上競技場を撤去して新設。ヤンマースタジアムはW杯を機に改修。東京五輪（1964）、国体（1997）でも使用。	市	●	●	●
37 キンチョウスタジアム			●	17.9	13.3	1987	キンチョウスタジアムは日本初の人工芝スタジアムとして開設。	市	●	●	●
38 Panasonic Stadium Suita	G 大阪/1991/J1	吹田市/37.4	●	39.7	24.3	2015	ガンバ大阪が中心となって建設費寄付を集める。完成後は市に寄付。	市		●	
39 ノエビアスタジアム神戸	神戸/1997/J1	神戸市/153.7	●	28.4	19.5	2001	鐘淵紡績工場跡地。御崎公園整備（1968）後に球技場開設（1970）。W杯会場として改修。複合施設。地域防災拠点の機能も。	市		●	
40 とりぎんバードスタジアム	鳥取/2011/J3	鳥取市/19.4	●	12.0	1.6	1995	総務省「ふるさとづくり事業」等の支援を受けて整備。総体（1995）会場。西日本で最初のサッカー専用スタジアム。	市	●		
41 シティライトスタジアム	岡山/2009/J2	岡山市/71.9	●	15.5	9.5	1957	旧陸軍練兵場跡地。国体（1962）で整備。国体（2005）主会場。	県	●		

表1 ホームスタジアムの施設特性（続き）

スタジアム ^{*1}	チーム/J 加盟年/2017 リーグ	所在地/人口 (万人) ^{*3}	種別 ^{*4} 専用 球技場	多 目的 球技場	入 場 可 能 数 (千人) ^{*5}	平均 入 場 者 数 (千人) ^{*6}	開 業 年	沿革・概要	所 有 者	管理 行政	外 郭 団 体	チ ーム	民 間 企 業	管 理 会 社
42 エディオンスタジアム広島	広島1991/J1	広島市/119.4		●	36.9	14.0	1993	アジア競技大会（1994）や国体（1996）主会場として整備。	市	●				
43 維新みらいふスタジアム	山口2015/J2	山口市/19.7		●	15.1	5.7	1963	国体（1963）主会場として整備。国体（2011）でも使用。	県	●				
44 鳴門・大塚スポーツパーク ポカリスエットスタジアム	徳島2005/J2	鳴門市/5.9		●	17.9	5.0	1971	県のスポーツ中核施設として整備。国体（1993）、総体（1998）サッカー会場。	県	●				
45 Pikara スタジアム	讃岐2014/J2	丸亀市/11.0		●	22.3	3.8	1997	1972年より運動公園整備。スタジアムは総体（1998）会場として。	県				●	
46 ニンジニアスタジアム	愛媛2006/J2	松山市/51.5		●	20.9	3.9	1979	1972年度より公園整備。総体（1980）会場としてスタジアム完成。	県	●				
47 レベルファイブスタジアム	福岡1996/J2	福岡市/153.9		●	22.3	9.6	1995	ユニバーシアード福岡大会（1995）サッカー会場として整備。	市	●				
48 ミクニワールドスタジアム北九州	北九州2010/J3	北九州市/96.1		●	15.3	5.9	2017	市債等を調達して民有地に建設。「スタジアムプラザ」「にぎわいプロムナード」には飲食店もある複合施設。PFIで整備。	市				●	
49 ベストアメニティスタジアム	鳥栖1999/J1	鳥栖市/7.3		●	24.1	14.2	1996	旧国鉄操車場跡地の再開発。1993年にスタジアム建設・プロサッカーホームタウン誘致を機に整備。	市	●				
50 トランスコスモススタジアム長崎	長崎2013/J2	諫早市/13.8		●	20.3	5.9	1969	国体（1969）主会場。国体（2014）やJ加盟により改修。	県		●		●	
51 えがお健康スタジアム	熊本2008/J2	熊本市/74.1		●	30.7	6.6	1998	日本陸上選手権（1998）、国体（1999）会場として整備。総体（2001）でも使用。	県		●		●	
52 大分銀行スタジアム	大分1999/J2	大分市/47.8		●	32.0	8.1	2001	W杯会場として整備。国体（2008）等でも使用。	県				●	
53 白波スタジアム	鹿児島2016/J3	鹿児島市/60.0		●	5.4	3.5	1970	国体（1972）の主会場として整備。J水準に改修。	県				●	
54 沖縄県総合運動公園陸上競技場	琉球2014/J3	沖縄市/13.9		●	10.2	2.5	1987	国体（1987）主会場として整備。総体（2010）等でも使用。	県				●	

*1 Jリーグ公式サイトによる。*2 Jリーグ加盟年と2017シーズンは次の通り。味の素スタジアム：東京V：1991/J2、FC東京：1999/J1、ニッパツ三ツ沢競技場：横浜FC：2001/J2、YS横浜：2014/J3。*3 人口は2017年（平成27年）国勢調査人口等基本集計。*4 専用：サッカー専用スタジアム、球技場：ラグビーやアメリカンフットボール、野球等の球技との兼用スタジアム、多目的：陸上トラック等を備えた多目的競技場。*5 Jリーグ公式サイトによる。*6 入場者数は2017シーズン。他のスタジアムで実施したホームゲームの入場者数やホームチーム以外が使用した試合の入場者数は含んでいない。当該ホームスタジアムで実施したものに限る。なお、味の素スタジアム：東京V：26.3千人、FC東京：26.5千人、ニッパツ三ツ沢競技場：横浜FC：6.0千人、YS横浜：0.9千人。*7 三協F柏スタジアムは（株）日立柏レイソル、ヤマハスタジアムはヤマハ発動機（株）（ジェビロ磐田の母体企業）がそれぞれ所有している。

ちづくり公社、（株）エスパルス）、ヤンマースタジアム、キンチョウスタジアム（いずれも指定管理者：（一社）セレッソ大阪スポーツクラブ、（一財）大阪スポーツみどり財団、民間企業6社）のように、ホームチームと外郭団体・民間企業と連携しつつスタジアムを管理する例もある⁽¹⁰⁾。

3. ホームスタジアムの立地特性（表2）

次に、スタジアムの建設地、スタジアム及び周辺地域の土地利用規制（区域区分、用途地域）から、予備的議論として（とりわけ郊外化のコントロールという点では重要であると思われる）スタジアムへのアクセスも勘案しつつ、Jリーグホームスタジアムの立地特性を分析し、スタジアムと周辺地域との一体的な開発に向けた方向性について若干の考察を加えておきたい。

3.1 スタジアムの建設地

スタジアムの建設地をみると、まず特徴として指摘できるのは、（第2章において国体や総体等の大会会場として整備された経緯からも推察され得るが）その殆どが都市公園内に建設されているという点である。具体的には、都市公園内に建設されたスタジアムは54箇所中の45箇所のスタジアムである⁽¹¹⁾。これを都市公園の区分でみると、運動公園25施設が最も多く、広域公園と総合公園はそれぞれ9施設、地区公園、特殊公園（風致公園）もそれぞれ1施設であった。吹田スタジアムは大阪府立万国博覧会記念公園内にある。

一方、公園内ではなく単独施設としてスタジアムが建設されているのは、札幌ドーム、ケーズデンキスタジアム、

三協F柏スタジアム、味の素スタジアム、ヤマハスタジアム、とりぎんバードスタジアム、ミクニスタジアム、ベストアメニティスタジアムの8施設であるが、味の素スタジアムのように、複数の競技場や体育館、広場、飲食施設等を持つ複合施設として建設されたものもある。

3.2 スタジアム及び周辺地域の土地利用規制（区域区分と用途地域）

大きくみると、まず、全てのホームスタジアムは都市計画区域に立地している。このうち、市街化区域内は29箇所、市街化調整区域内は24箇所であった。また、沖縄県総合運動公園陸上競技場は、非線引き都市計画区域内に立地している。

次に、スタジアム周辺地域（公園内に建設されている場合は公園周辺）の区域区分をみると⁽¹²⁾、周辺地域が市街化区域内にあるもの（以下「市街地型スタジアム」と呼ぶ）、周辺地域が市街化調整区域内にあるもの（「郊外型スタジアム」）、または、周辺地域に市街化区域と市街化調整区域とが混在するもの（「フリンジ型スタジアム」）に分類することができる。以下、この分類に基づいてそれぞれの特性をみてゆくこととしたい⁽¹³⁾。

(1) 市街地型スタジアム（周辺地域＝市街化区域）

市街地型スタジアムに該当するものは25箇所であり、周辺地域の用途地域の指定状況をみると、各スタジアムで住居系・商業系・工業系の様々な状況にある。ここにスタジアムへのアクセスも合わせてみると、その殆どが最寄り駅から徒歩でのアクセスが案内されているスタジアムであった（かつ、路線バスも利用できる）⁽¹⁴⁾。実際、スタジア

表2 ホームスタジアムの立地特性（出典：日本サッカー協会ら（2002）及び各種資料より作成）

スタジアム	スタジアムの建設地 (公園内の場合、公園所有者と種別)	スタジアム及び周辺地域の区域区分と用途地域													スタジアムへのアクセス*2		立地分類*5			
		市街化区域	調整区域	周辺地域										調整区域	公共交通機関利用（徒歩が可能な場合、路線バスの有無）*3	自動車利用（試合時の措置も含む）*4				
				住居系						商業系										
				一低	二低	一中高	一住	二住	準住	田住	近商	商業	準工業					工業	工業専	
札幌ドーム	単独施設		●						●				●		●	福住駅徒歩10分、路線バスあり（増発等あり）	駐車場あり（臨時Pあり）	フ		
いわぎんスタジアム	盛岡南公園（市・総合）		●											●		●	岩手飯沼駅徒歩15分、路線バスあり（増発等あり）	駐車場あり（臨時Pあり）	郊	
ユアテックスタジアム仙台	七北田公園（市・総合）	●		●				●				●				●	●	泉中央駅徒歩4分	駐車場あり（試合時不可）	フ
あきぎんスタジアム	八橋運動公園（市・運動）	●						●				●	●				●	秋田駅バス10分	駐車場あり（臨時Pあり）	市
ND ソフトスタジアム山形	山形県総合運動公園（県・広域）		●											●	●		●	天童南駅徒歩20分、路線バスあり（増発等あり）	駐車場あり（臨時Pあり）	フ
とうほう・みんなのスタジアム	あづま総合運動公園（県・広域）		●													●	●	福島駅バス30分	駐車場あり	郊
ケーズデンキスタジアム水戸	単独施設		●													●	●	水戸駅バス30分（増発等あり）	駐車場あり（臨時Pあり）	郊
茨城県立鹿島サッカースタジアム	ト伝の郷運動公園（県・運動）		●													●	●	鹿島サッカースタジアム駅徒歩2分、路線バスあり（増発等あり）	駐車場あり	郊
栃木県グリーンスタジアム	清原北公園（県・風致）	●														●	●	宇都宮駅バス34分（増発等あり）	駐車場あり	フ
正田醤油スタジアム群馬	敷島公園（県・運動）	●		●			●	●						●				前橋駅バス20分（増発等あり）	駐車場あり	市
埼玉スタジアム2002	埼玉スタジアム2002公園（県・運動）	●				●				●				●				浦和美園駅徒歩20分、路線バスあり（増発等あり）	駐車場なし	市
NACKS スタジアム大宮	大宮公園（市・広域）		●		●				●	●								大宮公園駅・北大宮駅徒歩10分、大宮駅徒歩20分、路線バスあり（増発等あり）	駐車場なし	市
フクダ電子アリーナ	千葉市総合スポーツ公園（市・運動）	●								●						●		蘇我駅徒歩8分、路線バスあり	駐車場あり	市
三協フロンティア柏スタジアム	単独施設	●		●				●										柏駅徒歩20分、路線バスあり	駐車場なし	市
味の素スタジアム	単独施設	●		●				●		●				●				飛田給駅徒歩5分、多摩駅徒歩20分、路線バスあり（増発等あり）	駐車場あり（試合時不可）	市
町田市立陸上競技場	野津田公園（市・総合）		●	●											●		●	鶴川駅・淵野辺駅バス10分、永山駅・多摩センター駅バス15分、町田駅バス20分（増発等あり）	駐車場あり（試合時不可）	フ
日産スタジアム	横浜総合運動公園（市・運動）		●					●					●			●	●	小机駅徒歩7分、新横浜駅12分、路線バスあり	駐車場あり（試合時不可）	フ
ニッパツ三ツ沢球技場	三ツ沢公園（市・運動）	●		●				●										三ツ沢上町駅徒歩15分、路線バスあり	駐車場あり（試合時不可）	市
川崎市営等々力球技場	等々力緑地（市・総合）	●				●		●		●				●				武蔵中原駅・新丸子駅徒歩15分、武蔵小杉駅徒歩20分、路線バスあり（増発等あり）	駐車場あり	市
相模原ギオンスタジアム	相模原麻溝公園（市・総合）		●	●		●								●	●	●	●	原当麻駅徒歩15分、路線バスあり	駐車場あり	フ
Shonan BMW スタジアム平塚	平塚市総合公園（市・総合）	●						●								●		平塚駅徒歩25分、路線バスあり（増発等あり）	駐車場あり	市
デンカビックスワンスタジアム	鳥屋野運動公園（県・運動）		●			●	●	●				●				●		新沼駅バス13分（増発等あり）	駐車場あり	フ
富山県総合運動公園陸上競技場	富山県総合運動公園（県・運動）		●													●		富山駅バス30分（増発等あり）	駐車場あり	郊
石川県西部緑地公園陸上競技場	西部公園内		●											●				金沢駅バス15分（増発等あり）	駐車場あり（臨時Pあり）	フ
山梨中銀スタジアム	尾瀬スポーツ公園（県・運動）		●													●		甲府駅バス30分（増発等あり）	駐車場あり（臨時Pあり）	郊
長野Uスタジアム	南長野運動公園（市・運動）		●													●		篠ノ井駅徒歩40分、路線バスあり（増発等あり）	駐車場あり（P&Rあり）	郊
アルウィン	松本平広域公園（県・広域）		●													●	●	松本駅バス30分（増発等あり）*3	駐車場あり（P&Rあり）	フ
岐阜メモリアルセンター長良川球技場	岐阜メモリアルセンター（県・運動）	●						●				●						岐阜駅バス20分	駐車場あり（P&Rあり）	市
IAI スタジアム日本平	清水日本平運動公園（市・運動）		●	●												●		清水駅バス17分（増発等あり）	駐車場あり（試合時不可、P&Rあり）	フ
愛鷹広域公園多目的球技場	愛鷹広域公園（県・運動）		●					●	●							●		沼津駅バス20分	駐車場あり	フ
ヤマハスタジアム（磐田）	単独施設	●		●	●			●						●	●			磐田駅バス15分（増発等あり）	駐車場あり	市
藤枝総合運動公園サッカー場	藤枝総合運動公園（県・運動）		●	●												●		藤枝駅バス20分	駐車場あり	フ

表2 ホームスタジアムの立地特性 (続き)

スタジアム	スタジアムの建設地 (公園内の場合、公園所有者と種別)	スタジアム及び周辺地域の区域区分と用途地域													スタジアムへのアクセス*2		立地分類*5	
		建設地 市街化区域	周辺地域 調整区域	市街化区域							調整区域					公共交通機関利用(徒歩が可能な場合、路線バスの有無)*3		自動車利用(試合時の措置も含む)*4
				住居系 一低 二低 中高 二中高 一住 二住 準住 田住	商業系 近商 商業 準工 工業 工業 専	調整区域												
33 パロマ瑞穂スタジアム	瑞穂公園(市・運動)	●			●	●	●	●	●						瑞穂運動場東駅徒歩5分、新瑞穂・瑞穂運動場西徒歩10分、路線バスあり	駐車場あり(試合時不可)	市	
34 豊田スタジアム	豊田市中央公園(市・総合)	●	●											●	豊田市駅徒歩17分、路線バスあり(試合時増発)	駐車場あり(試合時不可、P&Rあり)	郊	
35 西京極スタジアム	西京極運動公園(市・運動)	●						●				●	●	●	西京極駅徒歩10分、路線バスあり(増発等あり)	駐車場あり	市	
36 ヤンマースタジアム長居	長居公園(市・運動)	●					●	●	●			●	●		長居駅・鶴ヶ丘駅徒歩5分、鴨川中野駅・針中野駅徒歩10分、路線バスあり	駐車場あり	市	
37 キンチョウスタジアム																		
38 Panasonic Stadium Suita	大阪府立万国博覧会記念公園(府)	●			●		●		●				●		万博記念公園駅徒歩15分、路線バスあり(増発等あり)	駐車場あり	市	
39 ノエビアスタジアム神戸	御崎公園(市・地区)	●							●				●		御崎公園駅徒歩5分、兵庫駅徒歩20分、路線バスあり	駐車場あり	市	
40 とりぎんバードスタジアム	単独施設		●											●	鳥取駅バス20分(増発等あり)	駐車場あり(P&Rあり)	郊	
41 シティライトスタジアム	津島運動公園(県・運動)	●						●				●	●		岡山駅徒歩20分、路線バスあり	駐車場あり(P&Rあり)	市	
42 エディオンスタジアム広島	広島広域公園(市・広域)	●						●				●	●	●	広域公園駅徒歩10分、路線バスあり(増発等あり)	駐車場あり	フ	
43 維新みらいふスタジアム	維新百年記念公園(県・広域)	●			●	●		●					●		大歳駅徒歩12分、矢原駅徒歩16分、路線バスあり	駐車場あり(P&Rあり)	市	
44 鳴門・大塚スポーツパークポカリスエットスタジアム	鳴門・大塚スポーツパーク(県・運動)	●					●						●	●	鳴門駅徒歩25分、路線バスあり	駐車場あり(臨時Pあり)	フ	
45 Pikara スタジアム	丸亀市総合運動公園(市・運動)	●					●						●		金蔵駅徒歩20分、路線バスあり	駐車場あり(P&Rあり)	市	
46 ニンジャニアスタジアム	愛媛県営総合運動公園(県・広域)		●	●										●	松山市駅徒歩30分(増発等あり)	駐車場あり(臨時Pあり)	フ	
47 レベルファイブスタジアム	東平尾公園(市・総合)		●	●			●						●		福岡空港駅徒歩5分(増発等あり)	駐車場あり	フ	
48 ミクニワールドスタジアム北九州	単独施設	●											●	●	小倉駅徒歩7分、路線バスあり	駐車場なし	市	
49 ベストアメニティスタジアム	単独施設	●											●	●	鳥栖駅徒歩3分、路線バスあり	駐車場あり(P&Rあり)	市	
50 トランスコスモススタジアム長崎	長崎県立総合運動公園(県・総合)	●		●			●		●						諫早駅・西諫早駅徒歩30分、路線バスあり(増発等あり)	駐車場あり(P&Rあり)	市	
51 えがき健康スタジアム	熊本県民総合運動公園(県・運動)		●			●							●	●	光の森駅徒歩40分、路線バスあり(増発等あり)	駐車場あり	フ	
52 大分銀行スタジアム	大分スポーツ公園(県・広域)		●	●	●		●	●				●		●	大分駅バス35分(増発等あり)	駐車場あり	フ	
53 白波スタジアム	鴨池公園(県・運動)	●									●	●			鴨池場駅・郡元駅徒歩17分、路線バスあり(増発等あり)	駐車場あり(臨時Pあり)	市	
54 沖縄県総合運動公園陸上競技場	沖縄県総合運動公園(県・広域)	*1	*1	●	●		●		●						那覇バスターミナルバス72分	駐車場あり	フ	

*1 沖縄県総合運動公園は、ゴザ広域都市計画区域と那覇広域都市計画区域にまたがっている。いずれの都市計画区域も非線引き都市計画区域であり、公園周辺地域には用途が指定されている地区と指定されていない地区が混在している。*2 チームやスタジアムの公式ウェブサイトに基づく。所要時間の記載がない場合は各バス会社ウェブサイト等による。*3 増発等あり：試合時に路線バスの増発やシャトルバスの運行がある。なお、アルウィンは最寄りの村井駅より直線距離すると概ね3.5kmではあるが徒歩1時間30分とされている。*4 臨時Pあり：試合時にスタジアム周辺に臨時駐車場を提供するスタジアム、P&Rあり：試合時に最寄り駅等に臨時駐車場を提供し駐車場からのシャトルバスを運行しているスタジアム。*5 市：市街地型スタジアム、郊：郊外型スタジアム、フ：フリンジ型スタジアム。

ムのアクセスでは、埼玉スタジアムは、最寄りの浦和美園駅より徒歩20分(直線距離で概ね1.4km)には歩行者専用道路が整備されているし、「レイソルロード」(三協F柏スタジアム～柏駅)や「V・ファーレンロード」(ベストアメニティスタジアム～鳥栖駅)等とスタジアムへのアクセス路を名付けたり、みらいふスタジアムの最寄りの大歳駅は「レノファ応援駅」とするような例もあり、最寄り駅からスタジアムへのアクセス向上に向けた取り組みは既にある。

また、典型的には西京極スタジアム、ミクニワールドスタジアムやベストアメニティスタジアムのように、最寄り駅との近接性に加え、周辺地域に商業系用途が指定されているスタジアムもある。中でも、ベストアメニティスタジ

ウムは従来からの中心市街地とは反対側にスタジアムが立地しているものの、商業空間としての一体性を担保するような地元の取り組みが進められている⁽¹⁵⁾。

但し、正田醤油スタジアムやNACK5スタジアム、柏スタジアム、ニッパツスタジアム、トランスコスモススタジアムをはじめとして周辺地域に住居系用途が多く指定されている場合もあり、サポーターらの居住環境への配慮に対してチーム等が警鐘を鳴らしている。

(2) 郊外型スタジアム(周辺地域＝市街化調整区域)

郊外型スタジアムに該当するものは9箇所であり、ここで、再びスタジアムへのアクセスにも目を向けると、郊外型スタジアムでは、試合時に臨時駐車場が提供される等、

自動車利用のアクセスが案内されている例も多いが、例えば、豊田スタジアムやとりぎんバードスタジアムのように、駅周辺に臨時駐車場や提携駐車場を設けてシャトルバスを運行する例もある。

(3) フリンジ型スタジアム（周辺地域＝市街化区域と市街化調整区域とが混在）

フリンジ型スタジアムには 20 箇所が該当するが、このうち、スタジアムが市街化区域に立地するものは 4 箇所、市街化調整区域には 16 箇所である。この中には、典型的には栃木県グリーンスタジアムやアルウィンのように工業団地等（それぞれ清原工業団地、西南工業団地）に隣接する形で立地するものでは周辺地域には工業系の用途地域が指定されているという特徴がみられるが、他の例では市街地型同様に指定状況は様々である。一方、スタジアムへのアクセスをみると、多くの場合に最寄り駅からの徒歩でのアクセスは難しい状況にある⁽⁴⁶⁾。

3.3 考察：スタジアムと周辺地域との一体的な開発に向けた方向性

スタジアムと周辺地域との一体的な開発に向けた方向性を検討するにあたり、まず第一には、都市公園内に建設されたスタジアムでは、改変された都市公園法の枠組みも活用しつつ、公園整備との連携が求められよう。

次に、区域区分と用途地域からみると、「市街地型スタジアム」では、鉄道駅からのアクセスの良さを活かしつつ、広く想起されうような「まちなかスタジアム」としてスタジアムと周辺地域との整備を進めることも可能であり、とりわけ周辺地域に商業系用途が指定されている場合にはスタジアムを含めた連続的な商業空間として整備を進めるという方向もあり得る。一方、住居系用途が指定されている場合も少なくはなく、ここでは居住環境への配慮が求められよう。また、「郊外型スタジアム」では、スタジアムへのアクセスに自動車利用も止むを得ない現状にあると思われるが、ロードサイド型の商業施設建設に象徴されるような周辺地域（＝市街化調整区域）の開発は抑制すべきでもあり、できる限り最寄り駅等からの徒歩またはバス利用への転換が求められよう。但し、このような転換を図るには、スタジアム等に加えて最寄り駅等の周辺市街地の魅力向上も欠かせないことから、スタジアムから（やや離れた）最寄り駅等までを視野に入れた計画的な一体性が必要となろう⁽⁴⁷⁾。したがって、この場合、スタジアム周辺地域の開発は抑制するという点において、スタジアムと周辺地域との間の空間的に連続的な開発は必ずしも望ましい方向ではなく、スタジアムと最寄り駅等の周辺市街地という 2 つの拠点を一体的に整備してゆくことが望ましいものと思われる。さらに、「フリンジ型スタジアム」では、市街地型スタジアムと同様の開発の可能性を含みつつも、周辺地域に指定された市街化調整区域には十分な留意が必要になる。その意味では、郊外型スタジアムと似たような性格も有しており、「市街地型スタジアム」と「郊外型スタジアム」の両者に見られる課題を重層的に解く必要がある。

4. まとめ

Jリーグホームスタジアム 54 施設の施設特性と立地特性は、最大公約数的には次のように整理できる。

(1) 大会開催を契機に整備された兼用スタジアム

比較的全国に所在する Jリーグのホームスタジアムは、スタジアム施設という点では、サッカー専用スタジアムも一定程度はありつつも、多くの場合、他の球技・競技との兼用が可能な球技場や多目的競技場といった兼用スタジアムであり、かつ、これらのスタジアムは、2002 年のワールドカップはもちろんのこと、各都道府県で開催されてきた国民体育大会やインターハイといった大会を契機として建設または改修される例が多いことが分かった。こうした背景も重なって、スタジアムは行政が所有する場合が殆どではあるが、その管理は指定管理者制度の下で、スポーツや公園関係の外郭団体によって担われるものが主流ではある一方、チームが管理するものや管理会社が設立される例やグループや JV によって管理される例もみられた。

(2) 都市公園内に建設されたスタジアム

スタジアムの立地特性をまず建設地でみると、上述のような整備の経緯も重なり、その殆どが都市公園内に建設されていることから、スタジアムと公園とが連携して整備を進めることが重要であろう。また、単独施設として建設されたものには味の素スタジアムのような複合施設もあった。

(3) 「市街地型スタジアム」「郊外型スタジアム」「フリンジ型スタジアム」と「スタジアム・公園・最寄り駅」のパッケージ

続いてスタジアム周辺地域の土地利用規制に着目し、周辺地域が市街化区域の「市街地型スタジアム」、市街化調整区域の「郊外型スタジアム」、両者の混在した「フリンジ型スタジアム」に分けて Jリーグホームスタジアムの立地特性をみると、最も数が多いのは、いわゆる「まちなかスタジアム」で想起されるような「市街地型スタジアム」(25 施設)ではあるものの、「フリンジ型スタジアム」(20 施設)も看過し得ない数に上ることが分かった。「郊外型スタジアム」(9 施設)も少なからずみられた。

スタジアム周辺地域の用途地域の指定状況には、住居系（例えば、ニッパツスタジアム）、商業系（例えば、ミクニワールドスタジアム）、工業系（例えば、栃木県グリーンスタジアム）それぞれが特徴的なものもみられたが、概してみると様々な指定状況にあった。こうした土地利用規制に加え、スタジアムへの公共交通でのアクセスの重要性を指摘しつつ、「市街地型スタジアム」を中心としてスタジアムと最寄り駅とのアクセス向上に取り組む事例を紹介した。

スタジアムと周辺地域の一体的な開発に向けて検討すべき課題は山積しているようだが、本研究から素描するならば、スタジアムの施設特性に加え、区域区分や用途地域の指定状況をはじめとする立地特性等を総合的に勘案しつつ、「スタジアム・公園・最寄り駅」をパッケージとした検討が第一歩であると思われるが、このような検討を進める上で、スタジアムを所有・管理する行政、外郭団体、さらにはチ

ームや管理会社等との連携は欠くべからぬところであろう。

最後に足元での研究課題を指摘しておきたい。まず、開発の方策を具体的に検討するには、個別事例研究が求められることは言うまでもないが、本研究での知見からみると、とりわけ「フリンジ型スタジアム」や「郊外型スタジアム」を事例とした研究が求められよう。また、土地利用規制との関係では、注5でも指摘したように、区域区分や用途地域に限らず、時宜的に言うならば、都市機能誘導区域や居住誘導区域、また、とりわけ「フリンジ型スタジアム」や「郊外型スタジアム」では新設された田園住居地域への着目も面白いかもしれない。さらに、一体的な開発という点では、市町村や都道府県による都市計画マスタープランだけでなく、関連の深い公園・緑地計画、また、上位計画の総合計画における位置付け等も分析すべきであろう。引き続き取り組んでゆきたい。

補注

- (1) また、都市公園の再生・活性化に向けてプロ野球やJリーグ等のプロスポーツ施設を公園施設として活用することも一策として示される等、都市公園の再生・活性化の手段としてもスタジアム・アリーナは注目されている。
- (2) 本研究でとりあげた事例でみても、スタジアムを建設するだけで少なくとも4~5ha程度のまとまった敷地が必要である。
- (3) 既往研究においてJ3リーグを含めたものは殆どないが、J1・J2・J3クラブライセンス交付基準にはスタジアムに関する内容が含まれることから、本研究ではJ3チームまでを対象とした(但し、J3チームにはFC東京、ガンバ大阪、セレッソ大阪各U-23も含まれるがいずれもトップチームとホームスタジアムを共有している)。なお、基準には、各チームがホームゲームを開催するスタジアムを所有または(書面にて合意された)使用することの他、スタジアム入場可能数や備えるべき施設等が示されている。
- (4) 但し、上述のように、スタジアム自体やその周辺地域が市街化調整区域等の必ずしも開発されることが望ましくない事例も予想されることから、「一体性」とは必ずしもスタジアムと周辺地域との空間的な連続性を意味する訳ではない。
- (5) 土地利用規制を分析するにあたり、区域区分と用途地域だけでは不十分であるとの指摘もあり得るが(実際、例えば、札幌ドームでは周辺地域が羊ヶ丘風致地区に指定されているし、また、スタジアムを有する自治体には、例えば、新潟市のように立地適正化計画の下で都市機能誘導区域や居住誘導区域を定めたところもある)、既往研究において土地利用規制への言及はみられないことや基礎的研究としての本研究の俯瞰性に鑑みて、本研究では、まず、(土地利用規制の基本的な手段とも言える)区域区分と用途地域に着目することとした。
- (6) 現在、Jリーグチームのない県でも、「Jリーグ百年構想クラブ」としてJリーグ加盟を目指すチームもあり、例えば、ヴァンラーレ八戸(青森県)、奈良クラブ(奈良県)等がある。
- (7) スタジアムの建設・改修履歴を厳密に追うことは事実上不可能であることから(例えば、古いスタジアムを一旦壊して建て替えた場合には建設とするか改修とするか等)、本節では開業年を細かく分析することは避けておく。
- (8) ベストアメニティスタジアムも鳥栖市地域振興財団を指定管理者としてきたが、新公益法人制度への移行に伴う同財団の解散により、2013年4月よりスタジアムは市の管理となった。

- (9) このうち、公園関連の外郭団体が管理するスタジアムは6箇所、スポーツ関連が9箇所、行政施設全般を管理する外郭団体が指定管理者に選定されているのは3箇所であった。
- (10) なお、民間企業のみによるグループ・JVの例はフクダアリーナ(指定管理者:MMT 共同事業体)やアルウィン(TOYBOX 信州スカイパークサービスセンター)、沖縄県総合運動公園陸上競技場(トラステック・ミズノ共同企業体)等がある。
- (11) なお、ヤンマースタジアムとキンチョウスタジアムは同一公園(長居公園)内にあるが、別々に数えている(以下同様)。
- (12) ここでいう「周辺地域」とは、スタジアム(公園内にスタジアムが建設されている場合は当該公園)に隣接する地域を指す。本研究の基礎的研究としての位置付けにも鑑みつつ、簡易的ではあるが、本研究ではこのような定義とした。
- (13) なお、入場可能数数の平均は、市街地型スタジアム:22.5千人、郊外型スタジアム:18.0千人、フリンジ型スタジアム:23.4千人であったが、市街地型であっても、埼玉スタジアム(入場可能数62.0千人)や味の素スタジアム(49.0千人)のような大規模なスタジアムもあるし、郊外型であってもいわぎんスタジアム(4.9千人)のような例もあり、市街地=小規模なスタジアム、郊外=大規模なスタジアムという明確な傾向はみられない。むしろ、(横浜Fマリノス等のホームスタジアムを移転した例も念頭に置きつつ)チームのJリーグ加盟年別でみると、新しく加盟したチームのホームスタジアムは、市街地型よりもフリンジ型や郊外型が多い(補表1)。

補表1 Jリーグ加盟年別にみたスタジアム類型

J加盟年	~1995	~2000	~2005	~2010	~2015	~2017
市街地型	9	6	1	3	4	1
郊外型	2	2	0	1	5	0
フリンジ型	3	5	2	4	6	1

- (14) さらに、NACK5 スタジアムをはじめとして一般駐車場を備えていないスタジアムもある。
- (15) ベストアメニティスタジアムをめぐる市や商店街の取り組みは宮川(2014)に紹介されている。
- (16) しかしながら、ND ソフトスタジアムでは、最寄りの天童南駅(徒歩20分(直線距離で概ね1.4km))からスタジアムへの歩道を「モンテロード」として、天童市がチームマスコットの印刷されたブロックを設置する等の動きもみられる。
- (17) いわぎんスタジアムの場合、徒歩可能な岩手飯岡駅では、スタジアムアクセスから鉄道を隔てた側に商業系用途(近隣商業地域)の指定があり、実際、一定の商業・業務機能の集積が見られ、ベストアメニティスタジアムと課題を共有しよう。

参考文献

- 1) スポーツ庁・経済産業省(2017)「スタジアム・アリーナ改革ガイドブック」
- 2) 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)(2017)「J.LEAGUE™ PUB Report 2017 Winter」
- 3) 齋藤一・山本俊哉(2011)「日本の大都市におけるサッカースタジアムの立地特性と周辺開発との関連性」、『日本建築学会学術講演梗概集』、pp.635-636
- 4) 宮川啓輝・小泉秀樹・後藤智賀子(2015)「まちなかスタジアムを活用した地域活性化に向けた取り組みの実態と課題に関する研究」、『都市計画報告集』、No.14、pp.158-163
- 5) 松村和則(編)(2006)「メガ・スポーツイベントの社会学:白いスタジアムのある風景」南窓社
- 6) 有馬健一郎・井上亮・中野茂夫(2014)「プロ野球専用球場の立地特性と周辺整備に関する研究」、『都市計画論文集』、Vol.49 No.3、pp.705-710
- 7) 日本サッカー協会・全国自治体職員サッカー連盟(2002)「日本のサッカースタジアム」日本サッカー協会